



インから山元町の魅力が伝わる商品を開発。実際、東京をはじめとする他の都市で販売され、メンバーの自信とモチベーションアップにもつながりました。

町の「作業所」から 観光の「拠点」へ

山元町のいちごも今や奇跡の復活を遂げ、震災以前からの地球村の看板商品・いちごジャムも再び店頭に並んでいます。現在、オリジナル商品開発の要であるアートワークショップは月3回のペースで行われており、専任スタッフによるサポートのもと表現豊かな作品が次々と生まれています。ワークショップがはじまつた当初は何を描いたらよいかと戸惑いをみせていましたが、今では積極的にメンバーも、今では積極的に

パンを握り、互いに作品を見せあうように。「アートを通じてメンバー同士が認めあい、助けあう機運が生まれました」とスタッフは語ります。さらには、地域の人びとの憩いの場として2012年11月、コミュニティカフェ・カフェ地球村をオープン。こうした取り組みを通じて、山元町のなかでも障害のある人びとの可能性が認められ、町外のファンも増えつつあります。また山元町全体で行うアートイベントの拠点となるなど、商品の生産からイベントまで手がける地球村自体が、地域の観光資源となりつつあります。日々前進する地球村、そこに集う山元町の人びとのエネルギーは着実に全国へと発信されています。